

令和3年度 市長懇談会 会議録

【日 時】 令和3年4月28日（水） 午後2時00分から午後3時30分まで

【場 所】 周南市庁舎 多目的室

【テーマ】 「何歳になっても社会参加できるまちづくり」

【出席者】 ○周南市長

○周南トレッキング（健康寿命を延ばすことを目標に山登りなどを行う団体）

○まどの会（まど・みちおさんの作品を教育に取り入れてもらうよう活動する団体）

○久米自治会連合会（久米地区の環境整備等を行い、安心安全で住みやすい町を目標に活動する団体）

○道路課（課長）

○環境政策課（課長、課長補佐）

○高齢者支援課（課長）

○地域福祉課（課長、担当係長）

○観光交流課（課長）

○シティネットワーク推進部（部長、部次長、市民の声を聞く課長 他）

【会議録】

<市長>

本日の懇談会のテーマは、「何歳になっても社会参加できるまちづくり」としている。

本市では、市の最上位計画である「まちづくり総合計画」の中で、「安心安全を実感できるまちづくり」を掲げ、地域福祉活動の推進や、高齢者の社会参加の促進に取り組んでいるところである。

その中で、今年度は、高齢者の外出を支援するため、「高齢者バス・タクシー運賃助成事業」を開始することとしている。この事業に取り組むきっかけとなったのは、やはり市民の皆さまからの声である。「運転が不安になったけれど、免許証を返納したら買物にも病院にも行けなくなる。どうにかしてほしい。」というご要望やご意見を沢山頂いた。そこで、庁内で検討を重ね、今年10月から本事業を開始することとしている。

これは、75歳以上の方や、運転免許証を持たない65歳以上の方に対して、バス・タクシーの運賃を助成するものである。高齢者の皆さまが安心して外出できる環境を整備することにより、高齢者の社会参加に繋がることを期待している。

実施前には、改めてご案内するので、運転免許をお持ちでない高齢者の皆さまがいらっしやいましたら、ぜひ、お声がけをよろしくお願いしたい。

さて、今日は、皆さまが各団体の日頃の活動を通じて、感じておられることや考えていらっしやることなどをお聞かせいただき、ご参加の皆さま全員で、意見交換し、「何歳になっても社会参加できるまちづくり」の内容を深めていきたいと思っている。

これからのまちづくりを進めるには、行政だけでなく、皆さまのお力添えが不可欠である。本日のご提言を、参考にさせていただき、市政に反映してまいりたい。

<シティネットワーク推進部長>

最初に、本日お越しの皆さまから団体の紹介や、自己紹介、ご意見・ご提言についてのご説明をお願いします。

<周南トレッキング>

提案の柱としていることは、この町に住んで、楽しいこと、嬉しいこと、様々なジャンルで、きらきらした町であることである。一つ目に他の町ではしていないこと、二つ目に4地域が等しく取り組めること、三つ目に4地域とも交流人口が増えること、四つ目に多くの市民が関わることができ、楽しめること、それはアサギマダラの里づくりである。

周南市は立地環境がとてもよく、4地域にインターチェンジがある。西部には徳山西インター、中部には徳山東インター、北部には鹿野インター、東部には熊毛インター、これは周南市の財産の一つだと思う。

また、公園環境、山、広場の環境がある。西部には永源山公園、嶽山、北部には長野山公園、せせらぎ・豊鹿里パーク、中部には西緑地公園や太華山、大津島、東部には烏帽子岳公園、三丘温泉公園がある。これは思いつくものを列挙しただけなので、地域の方に聞けば他にもたくさんあると思う。

それから、周南市はコミュニティ作りを大切にしている町と思う。実施は、マンパワーとして、コミュニティ推進協議会、寿会、体育振興会、子ども会、学校の総合学習の一環として地域の高齢者と共に取り組んだり、ボランティア募集などいろいろな手段があるかと思う。

今、周南市では、シティプロモーションで「ここから、こころつながる。周南市」としているが、ツールとして動物園、梨ぶどう園、コンビナート、温泉、桜並木などがある。アサギマダラの里づくりがそのツールの一つになれば、交流人口にも繋がると思う。

市長の思いである、人に癒しを与える町やふるさとに誇りをもてる町になるよう、私達は切に願っている一人である。

(発言者交代)

補足として、フジバカマを植えられている団体が市内にも数箇所あると聞いた。ライオンズクラブや嶽山では老人会のボランティアの方が花を咲かせて、アサギマダラが来ている。リサーチすれば、個人で活動されている人達もいると思うので、市で調べていただきたい。

点を大事にし、線にしていければ、最終的には周南市の面になって、アサギマダラの里づくりができればいいと思う。

フジバカマは野生で生命力が強く、手入れに神経を使うこともなく、3平方メートルぐらいの土地があれば育つ。私も自宅の庭で育てているが、毎年蝶が来るので、近所の方が喜んで見に来られる。そういうのが市のいろいろな所に広がるといいと思う。また、フジバカマを通して、いろいろな団体や世代が交流し、みんなが幸せな気分になれるような里づくりができればいいと思う。

<市長>

ありがとうございました。

今話があったように、市内の4つのインターチェンジがあることは、我が町の先人達がインフラを整備してくださったおかげだと思う。

市内4地区での取り組みが、交流人口の増加にも繋がるというご提案だと思う。高齢者に限らず、様々な世代と一緒に社会参加することは大変重要なことだと思う。

<まどの会>

作家のまど・みちおの会である。テーマの「何歳になっても」というと、年を取ってもというイメージがあるが、持続可能な活動としては、魅力があるということが前提にあることと思う。まど・みちおさんの詩の素敵さ、奥深さ、哲学性もあり、小さい子どもから高齢者に至るまで、感動できる詩がたくさんある。それを一つ一つ丁寧に読み合わせるだけでも、心豊かになると思っている。毎朝読むと、ほっこりした気持ちになる。この気持ちをいろいろな人に伝えたいと思う。なかなか具体性がないので、今回のような機会に、私達の活動を知ってもらい、気軽に参加でき、まど・みちおさんの作品を共に味わってもらいたい。こんな偉人がこの町に生まれてくださったことを伝えたいと思う。

まど・みちおさんの詩はたくさんの音楽になっている。合唱会でも難しい曲がコンクールの課題曲になっており、全国区になっているので、ゆくゆくはこの町でまど・みちおさんの全国大会を開催できればいいなと思っている。

(発言者交代)

個人的な活動になるが、2000年にある団体を結成し、ひとつながりの縁を大切にしながら地域資源を生かす活動を、3年ごとに内容を変化させながらいろいろと行った。しかし、一市民グループで活動しても、持続可能なところまでいかない。

まど・みちおさんが100歳になった時に、美術館で館長とともに、まど・みちおさんのことを学べるような読書会を行い、まど・みちおさんの魅力を自分の心の中に蓄えたと思う。数年前にまど・みちおさんのことを教育現場で活かしたいと思い、一昨年、小中学校の校長会に参加させてもらい、まど・みちおさんの命日と誕生日の日には、校内放送を通じて、子ども達にPRしてほしいと要望した。そして、2月28日太華中学校に行かせてもらい、まど・みちおさんの作品の紹介と美智子上皇后が英訳された「ぞうさん」の英詩を校内放送で子どもたちに伝えさせてもらった。それを今後も命日の日にやっていただくよう学校側にお願いし、全ての学校のリサーチが終わっているわけではないが、私達の思いを受け入れてくださった学校は、命日の日にやっていただいている。

こういうふうになにかをやろうと心は、いつも動くが、持続可能なものは、役所や教育委員会が動いてくれないと、どうにもならないということを痛感している。

また、私は別の活動で、中学校で学習支援ボランティアを10年行っており、試験前の補修や夏休みなど、学校から声がかかった時に行かせてもらっているが、その時に思ったことは、なぜ、退職した学校の先生達がこういう場で活動していただけないのか。特にコロナ禍になってから、経済の格差が子どもの学力の格差を生んでいくのは、目に見えている

ことだと思う。退職した教師の方は、素晴らしい実績を持っていらっしゃるので、人材登録バンクのようなものを作り、子どもたちの学習支援をしていただくようなシステムを作っていたきたい。

(発言者交代)

2つ目の提案だが、まどの会が発足した原点は、市民館の中ホールである。今は中ホールがなくて、困っている市民がたくさんいるということと、提案している合唱コンクールもそうだが、日頃の活動を発表するための市民ホールが必要と考える。そこにまど・みちおさんの作品が散りばめられると、市民として身近に感じるものがあるといいなと感じる。市民との繋がりの中にもなると思う。

<市長>

たくさんご提案いただいた。これまでも、まどの会さんから、まど・みちおさんを学校教育に取り入れるご意見を頂いている。それを受けて、学校では、図書室でまど・みちおさんのコーナーを設置したり、誕生日にはお昼の校内放送で曲を紹介したりしており、子どもたちがまど・みちおさんに触れる機会が増えてきたと思う。この活動については、引き続きやっていきたいと思う。

先程、持続可能な活動というフレーズがあったが、徳山駅のプラットフォームは「ぞうさん」の曲が流れるのは知っていたが、今は「一年生になったら」も流れていた。そういうふうに、町全体で活動に取り組むのは大事だと思う。

市民ホールの建設については、3月の議会でもお答えさせていただいたが、徳山駅前地区の市街地再開発の組合に、ホールを盛り込む見直しの可否をお尋ねしたところ、残念ながら、見直しは困難とのご意向であった。

駅前の再開発事業施行区域内での建設は、断念せざるを得ない状況であるが、私も、本市の文化力の向上や、町の賑わい創出にもつながると考えている。「まどの会」さんの提案にもあるように、ホールで日頃の活動を発表することで、高齢者と社会の結びつきができると思う。

今後、ホール建設については、市民館跡地への、国の機関の集約を協議していく中で、あわせて可能性についても検討してまいりたいと思う。

<久米自治会連合会>

久米地区連合会は、現在46自治会で運営している。班編成としては、230班、2,745世帯の方が連合会に参加されている。令和3年1月現在、久米は9,296名が生活しており、男性が4,645名、女性4,651名である。

久米地区の世帯数は4,459世帯で、自治会の加入率は61.5%で、周南市の平均の加入率は75~80%となっており、15%程低く推移している。支所などと加入世帯数の増加を検討している。

犯罪、交通事故の起こらない町、地区の環境整備を行うことで、安全で安心住みやすい町、住んでみたい町を目標に活動している。

特に環境整備として、年に2回、河川を含む地区の一斉清掃活動している。また、天神山公園内の整備については自治会及びコミュニティ推進協議会がメインにやっているが、春の桜が咲く時期は、非常に景観のいい公園になっている。地域の方や有志の方も整備している。地区においては、小学校、中学校があり、太華中学校では年末に環境整備を行っている。

今回の提言は、人生100年時代といわれている現在、老若男女の方が健康維持のために朝、夕に散歩を行っている。スマホ等を持って歩数の確認や歩く時間管理で健康維持を行っているところである。

そこで、考えを少し展開し、町の危険な箇所をスマートフォンなどで撮影してもらい、市全体で地区の良い箇所、悪い箇所等を紹介、危険箇所を見つけたら、写真撮影を行う。写真で、改善、是正を行うことで、事故のない住みやすいまちづくりに繋がると思う。

具体的には散歩中、道路の状況を良く把握されているので、道路の凹凸や陥没などの悪いところを見つけたら、写真で撮影しアプリに投稿する。若い人から年配の人までがそのツールを使うことで、町がきれいになり事故が少なくなると思い、今回、提言した。

(発言者交代)

今、久米は宅地開発が大規模に進んでおり、その関係で若い人が増えた。今からの久米自治会連合会の在り方を説明しようではないかということで懇談会に参加した。若い人が増えると、年配の人と意見に隔たりがあり、年配は退いてほしいという意見があったので、今回の「何歳になっても社会参加できるまちづくり」というテーマには感動した。

提言についてだが、現在スマートフォンを持っておられる方も、操作方法については熟知されておらず、連絡用に持っておられる方が、多数見受けられる。月に1回程度、通報アプリについて説明し、皆が参加していただけるようにしていきたい。

年配の方が市民センターに集まることは、現状はなかなかできないが、回を重ねれば、操作できるようになると思っている。

<市長>

皆さまご存知のように、久米は大規模な宅地造成がされており、人口も増え、児童数も増えている。学校を増設している。その中で、しゅうなん通報アプリを利用して、今まで住んでいた人と、新しい人とが交流し、危険なところを見つけていくのは大事なことだと思う。

今言われた、高齢者向けのタブレットの講習会は、現在開催されているのか。

<久米自治会連合会>

今後、このテーマに沿って開催していきたい。

<市長>

しゅうなん通報アプリを利用して、地域を巻き込んだ、活動のご提言だと思う。地域と一緒に社会参加することは、非常にいいことだと思う。また、後ほど地域のことなど、話

を深めていきたい。久米地域をまとめるのは大変だと思うが、どうぞよろしくお願ひしたい。

事前に、皆さまのご提言を拝見させていただき、ただいま皆さまからお話を伺いしたところである。

近年、平均寿命も延び、また、核家族化が進み、高齢者の一人暮らしも増加している状況である。さらに、現在は新型コロナウイルスの影響もあり、なかなか外出できなかつたり、離れて暮らす家族と会えなかつたり、孤立や孤独を感じておられるご高齢の方も多くいらっしゃると思う。こういう状況の中、人と人とが、関わり合う機会が必要だと考える。

今回のテーマである、「何歳になっても社会参加できるまちづくり」についてだが、特に、高齢者の社会参加に焦点を当ててご意見を伺い、今後の市政に活かしていきたいと思うので、よろしくお願ひする。

まず、まどの会さんにお聞きしたいのだが、「高齢者の知識や経験を活かせるような仕組みづくりをしてはどうか。」と、提言していただいているが、どういったことや、どういったところで、高齢者の経験や知識が活用できるとお考えであるか。詳しくお伺ひしたい。

<まどの会>

私は、NPOにも属しており、町の映画館がなくなった際、10年間ほど映画の上映を行った。そういうことを考えるのは若い人には、なかなかできないと思う。

映画や音楽、美術などの文化を、蓄積しているのは高齢者の経験値だと思う。過去から生きてきた経験と知恵、時代を感じながら我々は生きており、そういうものを伝えることができるのは高齢者の役目である。

私は自治会長もやっている。自治会では60代が中心になって3世代を連携する方法を提案し、自治会で実施している。例えば、敬老の日に自治会からお祝い金を出すのが、その際に子ども達のお手紙も添えている。手紙を書くにも、核家族が多いので、子ども達は90代のおばあちゃん達の生活はどんな感じが分からない。分からなければお母さん達に聞いたり、想像を働かせて手紙を書いていると思う。そういう提案ができるのも、全部生きてきた経験値だと思う。

私は、120世帯の自治会長をやりながら、小さなコミュニティなので、そこでできることをやっている。夏休み期間中のラジオ体操も9年間やってきた。しかし、近年、小学生が減ってきている。9年前は20人ぐらいいたが、今年は3人しか小学生がいない。超高齢化社会の縮図になっている。その中で元気に頑張れる人達が、頑張る姿を見せることが、次の核となる人達を育てていくと思う。社会教育の一環として自治会長も引き受けているが、高齢者の役目だとも思っている。私は、「ここに引っ越してきてよかった。」と、引っ越して来た人達が言ってくれるのを誇りに思っている。市も同じだと思う。「周南市に住んでよかった。」と、皆さまが思ってくれば、こんな幸せなことはないと思う。

(発言者交代)

私達が話し合った中では、図書館で子ども達への読み聞かせ会が行われていると思うが、その場に読み手として参加することや、退職された地域の方達が、そういうところで働い

てもらふこともあると思う。

今、コスモス音楽祭がずっと続いているが、それは、まど・みちおさんの文化の継承には役立っている市民活動だと思うが、そこに参加しているのは、幼稚園児までである。小学生以上が作品に触れ合う機会が少ないと感じたので、小中学校の校内放送などに取り入れてもらふよう働きかけたが、他にどのような方法があるか具体的にはよく分からない。もしいい提案があれば参考にさせてもらいたい。高齢者自身も、まど・みちおさんの作品をしっかりと味わう場面があってもいいのではないかと思う。

<周南トレッキング>

市民館の中ホールについては、舞台だけでなく、実際には昔の市民館にはいろいろな部屋があり、安く部屋が借りられていた。そういうところで、退職された学校の先生や読み聞かせのボランティアの方など、もちろん子どもや学校の図書館司書の人などが、まど・みちおさんの詩を読んで、感動する、そういう共通の感性を持って、読み聞かせをするようなところが市にあれば、大人も中高生も、まど・みちおさんという詩人がこの町の出身で、感動する作品を残しているということを知ることができ、周南の文化の土台になると思う。

周南市には児玉源太郎さんや、他にも作家さんなどもいるが、若い世代で知っている人は少ないと思う。気軽に語ったり、学んだりするような場所があればいいなと思い、私たちも中ホールの要望をする。市と詩の読み聞かせ隊を行政の協力もあって、人材登録バンクも含めて、グループが動き出してくれればと思っている。市の広報などでも、読み聞かせの活動のPRするなど、市の協力により、進めていけたらいいと思う。

(発言者交代)

私が最初にお話した、この町に住んで、楽しいこと、嬉しいことがたくさんあって、きらきらした町に、こんな町に住んでよかったと思える町になればいいなという思いが根底にある。

先程発言があった、年寄りには引退しなさいっていう気持ちはよく分かる。私はそういう思いで10年前に社会活動から卒業した。私達がいつまでも君臨していると若者が育たない。引き際を見極めるべきだと思っているが、年齢を重ねるということは、多くのことを経験しているので、それを生かさない手はないと思う。人材登録バンクや読み聞かせ隊を提案されたが、この指とまれ方式で、市が募集してほしいと思っている。年を取ると、ストレスになることはしたくない。自分がそこに行って楽しいことをしたいと思う。ボランティアをするにしても、やりたい人が集まって作ればいいと思う。

私はアウトドアにはまっているが、今、下松市で山の整備をするボランティア団体が、高齢化によりメンバーが減って苦労していることをラジオで知った。私は5月2日にある、寂地山を整備するボランティアに参加しようと思う。肉体労働にはなるが、自分が好きなことをするのは苦にならないと思う。なので、いい提案などがあれば、この指とまれ方式でやったらどうかと思う。

<市長>

ありがとうございました。皆さまはたくさん活動をしていらっしゃるの、いろいろな話を聞くことができた。今のお話の中でいくつか大きなヒントがあったと思う。

読み聞かせにしても、いろいろなところで、活動をしている方もおられるので、その人達に、まど・みちおさんの話をしていくことは可能だと思う。誕生日などに読んでいただくよう、促すのは、市としてもできると思う。

様々な取組みが、ふるさと周南の伝統や文化への、誇りと愛着を生み、子どもたちのシビックプライドにも繋がっていくと思う。町場でも子どもが少なくなっているのは、大変な状況になったと感じる。数少ない子ども達を大切に育てながら、シビックプライドを育みながら、子ども達を育てていきたいと思う。高齢者の生きがいや、世代間の交流にも、広がっていくことを期待している。

地域のために皆さまが働いている姿は、他の方も認めていると思う。その活動を見て、賛同される方もおられると思う。ぜひ、引き続き、皆さまも頑張ってください。

次は、久米自治会連合会さんにお聞きしたいのだが、地域での社会参加のご提案だと思うが、ご提案について、もう少し、詳しくお伺いしたい。

<久米自治会連合会>

先程、話が出たが、私は地域を盛り上げるためにいろいろとやってきたが、やり過ぎて、他の人から、同じレベルのことはできないから参加できないという声は聞く。それが今に至っているが、あまり派手にやると次の人が困るかなと思っている。

今、アプリについても、年配の方にも地域に関心を持ってもらい、自分達が散歩の中で不具合なところを見つけて通報し、それを市に繋げることによって、自分達の行動のおかげで、こういう風に良くなったと実感を持つことができると思う。上手くいくかは、アプリの講師によって左右されるかもしれないが、意欲を持った講師がおられたら、長く続くと思う。

<市長>

ありがとうございます。

近年、健康ブームもあり、朝夕と散歩される方を多く見るようになった。散歩をする中で、毎日顔を合わせ、コミュニケーションが生まれ、仲間ができ、地域ができていくこともあると思う。

健康のための散歩が、地域を見る、地域を知る、地域に気づく、そして道路の状況把握や、防犯など地域の安心・安全に繋がる、ということであろうと思う。久米自治会連合会さんのアプリの教室も、広がっていくよう願っている。

今日は、せっかく皆さまがいらっしゃるの、しゅうなん通報アプリについて担当課からPRさせていただきたい。

<道路課>

しゅうなん通報アプリは、市民参加型の道路維持管理として、平成30年4月から導入し

ている。道路の異常箇所をスマートフォンで撮影し、位置情報とともに、市に通報することができる。3、4回クリックするだけで通報することができ、非常に便利なものである。市が情報を受けて、現地に行き、状況を把握し、修繕などの対応を行う。その対応状況もアプリで確認できるようになっている。

利用状況についてご説明すると、平成30年の運用開始から令和2年度末までの、通報件数が約2,500件、ダウンロード件数が約4,300件となっている。令和2年度の実績は、通報件数は約1,600件、ダウンロード件数が約1,800件となっており、多くの方に利用いただいている。そのうち、道路関係の通報内容については、「道路に凹凸がある。」や、「防護柵が傷んでいる。」「道路の白線が消えている。」などの通報を受けている。

ちなみに、アプリだけではないが、久米地域の道路対応状況として、昨年度舗装や側溝の補修など、約30件対応している。

今後も、アプリを活用した迅速な道路維持管理を務めてまいりたいと考えているので、よろしく願います。

<市長>

昨年度から、野犬についてもアプリを活用している。そちらについてもPRをさせていただく。

<環境政策課>

冒頭でもお伝えしたが、環境政策課では野犬対策に取り組んでいる。野犬対策を進めるにあたって、野犬の出没状況、時間や場所の情報が非常に有益であり、それを基に各種対策を講じていくことになるので、限られた職員でパトロール等行っているが、多くの方の情報を基に行う方が、より精度の高いものや、効果的な対策になる。こうしたことから、既存のプラットフォームに野犬に関する通報機能を追加し、昨年9月10日から配信を開始した。ダウンロード数は、野犬情報の通報機能を賦課した後、約1,650件ダウンロードがあり、大きな反響があったと考えている。

このアプリで、昨年9月から3月までの間に、約1,000件通報があった。頂いた情報を随時確認し、対応や対策、必要なケースについては、現地確認、パトロール、捕獲檻を設置したり、地元や学校などの関係機関に危険情報の共有の措置を取っている。野犬の捕獲業務は県が担っており、周南地区は周南健康保健所に情報提供をし、保健所での対策にも活用している。保健所からも非常に有効であると評価を頂いている。

野犬対策は様々なものを使って、取り組んでいるところではあるが、残念ながら久米地区において、昨年3件の咬傷事件が発生してしまった。こういった状況を踏まえ、住民の皆さまに野犬への注意喚起をさせてもらった。その際には久米自治会連合会様には大変ご協力を頂いた。こういった地域の方々との連携や協力を頂きながら、今後も野犬による被害を、また提言があったように、朝散歩している途中に、野犬が出没せずに、安心して活動ができるよう、一日でも早く対処できるよう努めてまいりたい。

<市長>

野犬は本市の課題である。位置情報や写真が撮れなくても、通報は可能なので、皆さまで取り組んでいただきたい。ご協力をお願いします。

次に周南トレッキングさんにお聞きしたいのだが、アサギマダラの里を作るということだが、夢があるご提言だと思い、私もこの指に止まろうと思う。

高齢者だけの問題ではないかもしれないが、地域でどのように取り組んでいけると思われるか。もう少し、詳しく教えていただきたい。

<周南トレッキング>

この提言を是非実現したいと思い考えてみたが、マンパワーとして幾つか挙げたが、まずはコミュニティ推進協議会や自治会など、やはり柱がいて感じている。

場所としては、例えば、中部は西緑地公園にみんなが集まり、周辺自治会中心に呼び掛けるのもいいのかなと思う。市の公園担当や観光担当にも相談し、観光人口や交流人口にも繋がればいいと思う。まずは、コミュニティ推進協議会に提案してもらい、手を挙げたところでやってもらえばいいと思う。

(発言者交代)

嶽山でボランティアをしている人が、アサギマダラを育てていると聞いた。他団体でも行っていることを聞いたので、行政でもそういうところに、情報提供やノウハウを聞いてもらえると、また展開が違おうと思う。

また、子ども会や児童クラブなどで、子どもに携わってもらいたいと思う。体育振興会から元気な中高年の方がいれば、まずはどこかでフジバカマの苗植えをできたらいいなと思う。フジバカマは繁殖力が強いので、耕作放棄地や荒地などを利用してフジバカマやヒヨドリソウの生育を見ていくのがいいと思う。もしプランがあれば、来年からそういう地域を探してもらって、進めてもらいたい。3平方メートルぐらい広さの土地でも、フジバカマを植えればアサギマダラは来る。今の若いお父さんお母さん達は、スポ少などで忙しいと思うが、子どもの教育になると思えば、親は参加すると思う。

アサギマダラは、渡り蝶なので、渡り蝶の研究を前面に出せば、若い親御さん達も少しずつ参加してもらえないかと思う。来年も同じ蝶が来るわけではないが、蝶を送り出したり、蝶が毎年来てくれると思うと、みんなが元気になるいいプランだと思う。

私達だけでは、全地域をリサーチすることすることはできないので、コミュニティ推進協議会や子ども会、そういう情報を持っている行政の方に探してもらって、情報を発信していただければ、私達も動けると思う。

<市長>

ありがとうございました。私もフジバカマやアサギマダラは好きである。鹿野の清流通りでは、秋になると、フジバカマの花に、多くのアサギマダラが舞っている。山陽小野田市では写真展も開催している。これを真似するわけではないが、周南市も鹿野のアサギマダラ、永源山のアサギマダラのような写真展を開催してみても、面白いかもしれない。個

人的にも応援したいと思う。

フジバカマを植えておられる方がたくさんいらっしゃるのであれば、まずはポイントを皆さまで声をかけていただいて、点が線や面になるのではないかと思った。

地域での社会参加により、地域での世代間の交流、交流人口の増加など様々な効果が期待でき、高齢者の生きがいの創出に繋がっていくと思う。

また、今回のご提案は、本市が進める、自然の中でゆったりと安心して楽しめる、「日常をときほぐす観光」の参考にさせていただく。

多くの経験と知識を持つ皆さまが活躍されることで、自身の生きがいでなく、教育・世代間交流・シティプロモーション・地域の安全性の向上など、さまざまな公共的な利益に繋がると思う。

ご提言の中にも、人生 100 年時代とあったが、会社を退職されたのち、地域社会に参加したい気持ちを持ちながらも、参加するきっかけがないという方が、多くいらっしゃると思う。

次は、私の方から、すでに地域社会で活躍されている皆さまにお伺いしたいと思うが、皆さまのように、積極的に社会参加する人を増やすにはどうしたらいいだろうか。社会参加することになったきっかけや、参加して良かったと思われたことなど、皆さまの経験を教えていただきたい。

<久米自治会連合会>

私自身のきっかけは、生まれて育ったところを振り返ると、郷土愛が芽生え、地域に参加しようと思った。私は、コミュニティ推進協議会に長く居た。会長が同じ自治会におられたので、その方のお声がけもあり、コミュニティ推進協議会に参加した。

今振り返れば、全盛期は 50 代だった。人と接しても、地域で生まれ育った地元の出身者か、そうでないかで、地域を見る考え方が違う。思い入れも違うので、そういう方を発掘するが、家庭の事情等で一緒に活動するのが難しい人もいる。退職してから地域に参加したいと言われるが、今仕事を退職しても 65 歳、今後退職が 70 歳ぐらいまで延びるという話があるが、70 歳になったら地域に参加するのは控えるのではないかと思う。地域づくりも今のやり方では行き詰まると感じる。そこが頭の痛いところである。

<市長>

ありがとうございました。昔は 60 歳で定年だったので、元気な方が、地域のボランティア活動をたくさんしていただいていた。今 70 歳になると、自分の体を守るので一生懸命でなかなか地域の活動ができないと、どこの地域からも聞いている。今のやり方では無理だというのは、一番大きなポイントである。子ども達に郷土愛を育てることもこれからやっていきたいと思う。

<まどの会>

自治会長に 60 歳の時になったが、今 9 年目である。女性自治会長になってよかったと思う。理由は、歩きながら地域の人とよく喋るからである。男性が会長の時は、誰が会長な

のか知らない人がほとんどだった。話をする中で、いろいろな意見を吸い上げることがができる。例えば、私の自治会は、春にお弁当を配付し、お花見を行っていたが、コロナ禍でできないので、Go To Eat のやまぐち食事券を配布した。そうすると、会員さんから嬉しいとの声があがった。みんな些細なことで喜んでくれていると感じた。

先程、アサギマダラの話が出たが、私は中学校の近くに住んでいるが、近所にお花を育てる人がたくさんいる。子ども達の通学路なので、地域の人にお花をきれいに育ててくださいと日頃お声がけをしており、花がきれいに咲いたら、「お花がきれいに咲いたね、中学生が喜んでいたよ。」とお伝えすると、励みになるようで頑張ってもらえる。細やかな配慮ができるのは、女性ならではだと思う。

アサギマダラも自治会で率先してやってみようと思った。中学校にも協力してもらうこともできると思う。皆さまの自治会でも、女性も活躍してもらえるように尽力していただければ、社会が明るく生き生きとなるかと思う。

<周南トレッキング>

私自身が転勤族でこちらに来た。根っこをこの地に下したので、私達も子ども達もここが故郷になった。そしたら、この町に住んでよかったと子ども達にも思ってもらいたいと思うようになり、私ができることには関わってほしいと思いきい、いろいろと自分に回ってきたものは拒否をせず、私ができることは一生懸命させてもらった。

それには、やっぱりこの町に住んでよかった、この町に住んでいると楽しいことや嬉しいことがたくさんあると思える、きらきらした町になれば、もっとボランティアをしようと思う人が増えると思う。

<市長>

ありがとうございます。皆さまの話をお手本にしたいと思う。そろそろ、終了の時間が迫ってきたのでまとめたいと思う。

<シティネットワーク推進部長>

皆さまありがとうございます。

今回のテーマは「何歳になっても社会参加できるまちづくり」ということで、今回皆さまからいろいろな視点からご提言を頂いた。

全体を通して思うことは、先程、郷土愛という言葉もあったが、周南市に住んでよかったというふうに思えるようにということで、楽しいこと、嬉しいこと、やりがいになることを皆さまやっつけていって、きらきらしておられ、元気に活躍されておられるのだと感じた。皆さまが地域のために活動していって、他の皆さまが見て、関わることで元気に繋がったり、一緒に輪が広がったりするのだと思う。皆さまのようにできないかもしれないが、少しでも皆さまのお力になれるといいのかなと思う。それが次の世代に繋がっていくことが、皆さまが目指されていることなのかなと今日の話聞いて感じさせていただいた。

<市長>

本日は、皆さまから、多くのご意見などを伺い、また、活動や経験を聞かせていただき、大変有意義な懇談会となった。私自身も元気を頂いた。本当にありがとうございました。

今後も、高齢者が、自分らしく、楽しく元気に活躍し、一人ひとりが、生きがいや役割を持ち、地域や各世代が関わりながら暮らしていくことができるよう、本日の皆さまのご意見を参考にさせていただき、市政に取り組んでまいりたい。

これからの、まちづくりを進めるうえで、皆さまのお力添えが大切である。「何歳になっても社会参加できるまちづくり」に、引き続きご支援、ご協力の程、よろしく願います。

結びに、皆さま方の、今後、益々のご活躍をお祈りいたしまして、終わりの挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。